



『再開』の夏

副校長 武藤 浩之

座右の銘としてよく用いられる言葉に“継続は力なり”があります。言うまでもなく“続けることの重要性”を端的に述べた俚語ですが、個々人のみならず学校生活にも当てはまります。分かりやすい例を挙げれば各種の行事であり、続けることによって培ってきたものをときに“伝統”と呼びます◆ただし、学校内外の諸事情により、あるいは自然災害により、継続中断を余儀なくされることもあります。今夏、それらのうち、嬉しいことに次の三つが「再開」に至りました。東吾妻山登山、ニュージーランド国際交流プログラム、そして夏休みのプール利用です。登山と国際交流については別枠にて取り上げていますので、ここではプール利用のみに触れることにします◆東日本大震災の前年ですから平成22年です。この年まで夏休み中のプール利用を行なっていました。その最後の利用から、なんと7年振りの「再開」になります。7月24日(月)から五日間、のべ利用児童数は209名。麦わら帽子にサンダル。日焼けした顔と手足。プールに響き渡る歓声。本校にも、夏の風物誌、夏らしい光景がようやく戻ってきました◆さて、昨日から2学期が始まりました。冒頭で取り上げた俚語の通り、本校ならではの教育を“継続”することで、実り多き秋にしたいと思っています。



【第30回 5・6年 登山合宿訓練 “報告”】

体育科 湯川 洋

- ・梅雨明け宣言が出ないまま登山合宿訓練に入りましたが、3日間とも好天に恵まれました。今年度は、メインの活動場所を「安達太良山」から「東吾妻山」に戻しました。安全が確認できたからです。
- ・初日に登ったのは鬼面山です。6年生は3回目、5年生は2回目になります。昨年の秋、初めて登った鬼面山の下山時、急斜面で何度もしりもちをついていた児童も、今年は注意深く上手に歩けるようになりました。やはり、経験の積み重ねはとても大切であると実感しました。
- ・2日目の東吾妻山登山の行程は、決して楽ではありませんが、グループで声を掛け合いながら頑張って登りました。浄土平から急斜面を登り終えると、急に視界が開け、鎌沼や焼ヶ原の湿原の間の木道をしばらく歩きます。耳に入ってくるのは鳥の鳴き声と風の音だけです。東吾妻山登山口からは、狭い急な登山道を歩きます。松の倒木や大きな段差に気を付けながらです。林の中を抜けて山頂に出ると360度の絶景が広がります。猪苗代湖、磐梯山、裏磐梯の湖、中吾妻山、西大嶺、西吾妻山、谷地平の湿原。遠くには、雄大な飯豊連峰等のパノラマを見ることができます。
- ・今年も3日間の日程を怪我なく終えることができました。これは決して当たり前のことではありません。児童一人ひとりが登山に対する意識を持ち、皆で助け合った成果です。もちろん私も引率教員も、安全のために細心の注意を払いました。
- ・本校の登山合宿訓練は、来年、31回目になります。この行事を経験した児童も、これから経験する児童も、福島素晴らしい大自然を大切にできる大人になって欲しいものです。



ご協力を！～園児・児童募集～

★毎年のことですが、夏休みが終わりますと、すぐに「園児」「児童」募集の時期になります。まずは9月5日(火)。私立幼稚園協会主催による「子育てフォーラム」です。

★小学校では今年度も「オープンスクール」を行ないます。9月14日(木)～16日(土)の三日間。いずれも午前中です。多くの来校者がありますよう、お知り合いの方に、ぜひお声をかけて下さい。ご協力をお願いします。

幼稚園

【入園説明会】

9月20日(水) 10:00～11:30

【入園願書受付】

10月3日(火)～10月6日(金)

*時間帯 9:00～17:00

*見学は随時可能ですが、園外活動を行っている場合もありますので事前にお問い合わせ下さい。

小学校

【第2回 学校説明会】

10月21日(土) 10:00～12:00

*参観授業+学童見学

【入学願書受付(本学院幼稚園以外)】

11月6日(月)～11月24日(金)

平日・9:00～16:00

土曜・9:00～12:00

2017 ニュージーランド国際交流プログラム <報告>

英語科: 猪本 恵美

2年ぶりのプログラムに不安と期待に胸を膨らませて、5年生7名と6年生2名の計9名が参加。ニュージーランド北島ハミルトン郊外にて、ホームステイと英会話の勉強。そして、現地児童との交流をしてきました。引率は猪本とISAスタッフの二人です。大好きな保護者の方にも、頼りになる担任にも甘えることのできない異国の地で10日間も過ごすのですから、ハプニングが起きたり、ホームシックになったりするのは当たり前です。そうしたことも含めて、とても中身の濃い10日間になりました。

平日は私立カトリック校で英会話やニュージーランドの歴史・文化等を英語で学びました。子どもたちにとって、一番の楽しみは“モーニングティー”と呼ばれる時間。スナックや果物を食べながら、校庭で学年の枠をこえて自由に遊び回れる時間です。「英語が分からない」などと怖気づく暇もなく、あっという間に現地の子と仲良くなっていました。



↑ 折り紙を教える



↑ 現地校の教室にて

ある時、「先生！」と泣きながら助けを求める児童がいました。聞くと、現地児童に「もっとお土産ちょうだい！」とせがまれ途方に暮れたとのこと。問題解決をしながら「そういうことが起こるのは、英語を理解できるようになったからだよ。」と伝えると、「ああ、そうか。」の一言。たとえ短期間であっても、子どもたちの英語力やコミュニケーションの力が飛躍的にアップすることには驚きです。英語をツールとして異文化を体験し、かつ自立の一步を踏み出す経験のできるこのプログラム。日本を発つ前と帰国時とは全然違う表情を見ることができました。参加児童にとっては、まさに一生の思い出となることでしょう。

